

都会の大学生と北上町の人々

人間環境学部の石巻フィールドスタディに参加して、震災から4年半近く経った石巻市を視察、北上町で漁業のお手伝いや仮設住宅でのイベントを開催する経験をさせて頂いた中で感じたことを書いていきたい。

石巻市は東日本大震災により多くの被害が出て、4年以上復旧・復興作業を続けてきた。初日の視察を通して感じたのは、復旧・復興作業は新しいまちづくりに直接繋がるということである。津波の被害を受けた場所は、建物が建てられず復興公園が作られ、海岸や川岸には防潮堤が作られる。住民の方からすると今後何十年と生活することになるまちであるが、何m十何mもの防潮堤を作るのは、住民たちへの十分な合意形成が行われているのだろうか疑問に思った。もしも次に同じ規模の災害が起きた場合の備えは必要であると思う。しかしそれは高い防潮堤の建設一択であっていいのだろうか、海と共に生きてきた人たちからすると海が見えなくなる生活は今までと大きく変わってしまうのではないのかと感じた。

その後活動の拠点は北上町になり、北上町では4日ほど過ごした。今回のフィールドスタディは北上町のにっこりサンパークにある仮設団地にて寝泊りをして過ごした。北上町に滞在した4日間は漁業のお手伝い、私たちが企画したイベントを通して住民の方たちとの交流会、震災時・震災後の語り部、にっこり団地周辺の視察を行った。

この中でも私の中で大きく印象に残っていることがある。それは語り部をして頂き、交流会に来て頂いた仮設住宅の住民の方たちである。仮設住宅の住民の方たちは突然震災が起き、帰る家が無くなり、避難所で過ごさざるを得なくなり、その後できた「仮設」の家に4年近く経った今も住んでいる。そんな状況下の住民の方たちは私が想像していたよりも明るい方たちが多く、よそ者の私たちにも温かく対応してくれた。色々なお話をしてくれる方たちも多く、もちろんそれぞれの方が大きな悩みや苦痛があるのは理解しているが、私は東京にいては過ごせないような楽しい時間が過ごせた。

お話を伺う中で印象に残っていることがある。それは当初作られるはずではなかった30番台の棟に住まわれていたNさんが、現在建設中の災害公営住宅のために、団地内で引っ越しをしなければならない、とおっしゃっていたことである。よそ者の自分たち、それを言った自治体の人たちから見ると、団地内の引っ越しなら負担も少なく簡単なことと考えると思う、自分もそう考えた。しかしNさんはそんなに簡単なことではないとおっしゃっていた。仮設住宅は部屋の壁も薄い。隣の部屋の物音も聞こえることもある。4年近く過ごした中で隣人同士の信頼関係もでき、隣は小さい子どもがいるから少し騒がしくても仕方ないという相互理解もできている。しかしこの時期に新しく隣人関係を一から築いていくのは大変と言うのである。これは実際に体験するかお話を聞くことでしか知り得ないことだと思う。この出来事は仮設住宅に住む人々それぞれに異なった事情があり、一

辺倒な政策や対応では個々の復興は進んでいかないのだと気付かされたことだった。このお話を聞いて良かった、そして多くの人に被災した人が今置かれている状況を知ってほしいと感じた。

もう一つ印象に残っているお話がある。それは中学生の男の子 H 君が言っていたことである。それは震災後、H 君の家族は仮設住宅の 3K の部屋で暮らすために家族みんなで暮らせなくなったこと、自分の部屋もなくて、大の字で寝ることもできない。だから家を建てて、家族みんなで暮らしたい。大の字で寝られる部屋がほしいと言っていたことである。子どもたちが仮設住宅で暮らすストレスは大きいのだと感じた。私が中学生のときには自分の部屋もあって好きなように寝られるスペースもあった。私自身と比較することで震災から 4 年半経ったにも関わらずこの現状なのかと、もっと上手く復興に向かえなかったのか、住宅だけでももう少し早く準備できないのだろうかと憤りを感じた。また同時に現地へ行きお話を伺うまでその現実を知らなかった自分にも憤りを感じた。東北・復興についてニュースなどで報じられる回数は減少している。そのため東北の現状を知らない人は多いと思う。東北の被災地の方から忘れられることがこわいという言葉も聞いたことがある。今回訪れた私たちは少しでも多くの人へ伝えることが、やらなければならないことであると感じた。

その中で震災後に外部から支援に入っている N さんの活動も印象深かった。私たちの活動を全面的にサポートしてくれたのが N さんである。北上町の方たちと外部の私たちを繋げてくれた。普通出会うことのない関東に住む私たちと、にっこり団地に住む方たち、北上町の方たちを繋げてくれ、見て聞いて知る被災地の状況だけではなく、お互いにコミュニケーションをとることができ、イベントを通して住民の方たちと一緒に作業する時間も過ごせた。また東京で暮らしている私たちが味わえない畑から採りたての野菜を使った食事なども頂き、充実した時間が過ごせたと思う。しかし都会から来た大学生として、現地に入りボランティアをする中で私たちは住民の方、N さんを含め迷惑をかけてしまった部分もあると思う。招かれたお客さんとして行ったわけではなく、私たち自身の意思で何かしたいと思い行った中で、常に現地の方たちに意識を向け行動できていたか、私たちの物差しで判断、行動していなかったか、という点を徹底できなかったのは反省点である。

私は今回のフィールドスタディでお会いした方たちから色々なものをもらったと思う。しかしその恩返し出来ているのかは分からない。おそらくできていないと思う。今回参加して終わりでは、お話をしてくれた方たち、お世話をしてくれた人たちにも申し訳ない。来年かそのあとだとしても、私自身でまた北上町へ訪れること。そして東京での生活の中でも北上町、石巻市、東北のことを考え続け、忘れずに過ごすことをしていきたい。